



出版クラブ会報 No.621



立場の違いを乗り越え 親和の精神で進んでいく

日本出版クラブ会長
野間 省伸

(のま・よしのぶ)

あけましておめでとうございます。
おかげさまで出版クラブは神保町に移転して6年目を迎えました。出版の出発点はこれまで世の中になかったものを新しく創り出すことにあると思えます。そのためには、多くの人々がコミュニケーションをとりながら、お互いが刺激しあい、アイデア・企画を磨き上げていくことが何より大切なことだと考えます。そうした出会いの場を提供することこそが出版クラブの最大のミッションです。

さて、昨年の第62回全出版人大会では、400人の方々に
お集まりいただき、4年ぶりに

懇親会を開くことができました。やはりフェイストゥフェイスで話をするのが出版人の基本だと痛感した次第です。大会委員長は集英社社長の廣野真一様にお願ひし、「精神の自由」の重要性を謳った大会声明をいただき、姜尚中氏の記念講演では「アジアを生きる」ことの意義を語っていただきました。

また第55回出版功労者顕彰会をこちらも4年ぶりに箱根の出版平和堂で開催し、11名の功労者のお名前を加えることができました。出版平和堂では記銘板を設置するスペースが少なくなってきました。そのため増設工事も行いました。

こうしたイベントに加え、出版クラブビル3階ロビーに無料で飲めるコーヒーマシンを設置し、簡単な打ち合わせができる椅子とテーブルも配置しました。維持員のみならず、スタッフが集まれる場々クラブとしてよりいっそうの充実を図っていく所存です。

開館以来、クラブライブラリーで開いてきた「小さな本の展覧会」では、秋に書籍協会と共催で「ジエンダー」をテーマにした展示を行いました。出版業界にとっても、ジエンダーの視点は今後ますます欠かせないものになるでしょう。今年の全出版人大会は5月

主な記事

- ▽2024年 新年名刺交換会団体代表ご挨拶……………15
- 野間 省伸・小野寺 優・堀内 丸恵・近藤 敏貴・矢幡 秀治
- ▽新春紙上名刺交換……………六十九
- ▽〈出版歳時記〉出版社に書店を！……………二十

7日に開催します。大会委員長を筑摩書房社長の喜入冬子様にお願ひしました。女性の大会委員長は、野間佐和子前出版クラブ会長以来、約25年ぶりになります。もともと女性活躍できる出版界になることを願っています。

全国の矯正施設や首都圏・関西圏の児童福祉施設に図書を寄贈する「読書のめぐみ運動」は一昨年70回目を迎えました。その活動に対して、法務大臣から矯正施設への本の寄贈についての感謝状をいただきました。また、児童福祉施設への寄贈に対しては、多くの行政機関のトップから表彰状を頂いております。

矯正施設の入所者から「生まれて初めて本にちゃんと向き合うことができました。ありがとうございます」という言葉をいただきました。本の力を信じてこれからも活動を続けていきたいと思えます。

2023年度上期4月9月の会館の営業状況は、新型コロナウイルスが5類に移行に

なり、会議・宴会の利用者数が対前年比175%、事業収入が194%と順調に回復しています。事業収支はわずかずではありますが、黒字となりました。今後ますますのご利用をお願ひいたします。

出版業界は、今年4月に物流費の値上がりや輸送距離が制限される「2024年問題」に直面することとなります。また全国の市区町村のうち4分の1以上に書店がない状況も看過できない深刻な問題です。円安による原材料費の高騰や人件費の上昇により、これまでの定価設定では出版物をこれまで通り刊行するのが難しくなっています。作った本が読者に届くということが、今や困難になっている状況です。

この難局を、出版クラブの創立の理念である「出版界の総親和」という精神に立ち、みなで力を合わせて打破していこうではありませんか。

世界各地で戦争や紛争が起きています。世界は「分断の時代」に入ったと言われています。そんな時代だからこそ、出版界は立場の違いを乗り越えて親和の精神で進んでいきたいと思えます。

本年も何卒よろしくお願ひいたします。(講談社社長)

日本書籍出版協会理事長の挨拶



本の魅力を伝え、 読者の裾野を広げよう

小野寺 優

(おののら・まゆみ)

明けましておめでとございます。二〇二四年が出版界にとって実りある年になることを心から祈念いたします。

残念ながら出版業界の経営環境はとみに厳しさを増しています。昨年については生活必需品の相次ぐ値上げにより、可処分所得が本にまわらず、書店の来店客数が落ちていくことが出版界の売り上げに大きな影響を与えました。今年も、書店に多くの人を誘導する活動に業界挙げて注力する必要があります。

そのひとつとして、当協会では昨年12月に、全国の書店イベント情報を一覧できるポータルサイト「ブックイベントナビ」をグランドオープンしました。このサイトにアクセスしていただければ、誰でも全国各地の書店イベントを知ることが出来ます。将来的には本好きでない方も書店イベント情報が届き、訪店のきっかけとなる、そんなツールになることを目指しています。

書店の皆様にとっても他店のイベントを知ることによって、来店イベントを考える参考になるかもしれません。このサイトは書店に直接イベント情報を入力してもらう形です。忙しいと思いますが、数分あれば入力できますし、広く報知することにより、誘客だけでなく、新たな顧客の開拓につながるかもしれません。ぜひともご活用いただきたいと思っております。

また昨年は、出版社、販売会社、書店のいわゆる業界三者により2回目となる「BOOK MEETS NEXT」が開催されました。内容的にも充実し、参加者は満足なさったのではないのでしょうか。今年もさらに広く報知し、一般の方がより多く興味を持つイベントに育て、これも読者の裾野を広げます。

この数年、米国ではZ世代の若者たちが紙の出版物を求め、出版物の売上が上がり、激減した書店も再び増えている

ようです。デジタル媒体に疲れた若者たちが、紙の出版物の質感や触感、印刷の香りなどを楽しんでいることが一因と聞きました。今の若者は大抵のものはサブスクなどで済ませますが、「推し活」のように自分たちが本当に価値を見出したものについては、驚くような労力を費やし、お金も使います。ならば我々が紙の本や読書にもっと価値を見出していれば潜在的な読者を掘り起こせるのではないのでしょうか。新しい年に様々な本に出会い、面白いと思う若い世代が増えてほしい。そういった世代に向けての情報発信を積極的に、本の世界をもっと魅力的にしていきたいと強く思います。

一方、書籍出版においては海外市場への展開も重要なテーマです。昨年、フランスのルフトブックフェアは七五回目を迎え、日本の共同ブースには二五社が出展しました。コロナ前と比較して出展者、来場者が八割ぐらいいまで回復し

たそうです。書協でも、VIPO(映像産業振興機構)と共同運営しているJapan Book Bankが順調に登録件数を伸ばしています。ここ数年、日本の出版コンテンツや作家に対する関心は急激に高まっています。日本文化の発信、著者の未来への展望などを考えても、海外進出にはさらに注力すべきだと思いますし、海外で話題になることが、国内市場の活性化にもつながると思います。

また、大きな話題となっている出版物流問題は2024年が正念場です。物流はこれまで主として雑誌の問題と考えられていましたが、書籍の流通金額が雑誌を大きく上回っている現状を踏まえると、書籍出版社にとっても他や他人事とは違っていられます。現状をご理解いただき、適切な対処をお願いしたいと思います。

出版界には、その他、授業目的公衆送信補償金制度における分配問題、図書館等公衆送信補償金制度のための管理団体の組織運営、インボイス制度への対応とフリーランス事業者への配慮、読書バリアフリーに向けた取り組みの強化、生成AIに関する議論等、多くの課題が山積しています。これらについても出版界の叡知を集め、打開策を見出していききたいと思います。本年も当協会の活動へのご協力をよろしく願っています。(河出書房新社社長)



大切なあのひとへ、本との出会いを。

図書カードNEXTは「本屋さんへの招待状」です。



日本図書普及株式会社



日本雑誌協会理事長の挨拶



年頭にあたって

堀内 丸恵
(ほりうち・まるえ)

明けましておめでとうございます。

昨年、5月の連休明けによくやく新型コロナウイルス感染症が5類となり、4年ぶりに日常を取り戻しました。夏には感謝の会などが開かれ、年末も文学賞の贈賞式、懇親会も挙行されました。

オンライン参加が続いていた「FIPP世界メディア会議」ですが、昨年は2019年以來の現地参加に踏み切りました。開催地ポルトガルのカスカイスに、雑誌協会からは私を含めて13人が参加しました。現地で実感したのは、デジタル化の話は過去のものとなり、すべてのセミナーが「デジタルのその先へ」を議論していたことです。生成AIがホットなトピックとなり、ウクライナから参加したジャーナリストに現地からの報告を聞き、世界のリアルを実感しました。

国際交流ということでは、

7月に韓国雑誌協会のみなさんが来日されました。22年に私が招待されてソウルで記念講演をし、今度は韓国のみなさんが日本に来られました。仁川と北九州に直行便ができたこともあり、小倉での再会となりました。今年もこの友好を発展できればと考えています。

10月に国連主催の「IGF(インターネット・ガバナンス・フォーラム) 京都2023」が開かれたことも特筆すべきことでした。出版界としては、インターネット上の海賊版サイトについて、国際協力を築くことが必要です。毎度お話ししていることですが、今でも海賊版サイトに月間2億弱のアクセスがあります。著作者への正当な対価を還元できなくなることは、経済的損失のみならず、次世代への創造のリレーも途絶えることになりま。この会議での発表を通して、A B Jや関連団体とともに今年も海賊版サイトには

強い態度で臨みます。

週刊誌などが報じる雑誌コンテンツは、いまやネットの目玉コンテンツとなつています。Yahoo!やGoogleなどが影響力を持つなか、雑誌記事配信の責任者は、雑誌の自社サイトに読者がなかなか訪れない問題に悩まされてきました。9月に公正取引委員会は実態調査報告を出し、プラットフォーム事業者は独占禁止法による「優越的地位にある可能性」に言及しました。これを受けてネットの事業者と公正な関係構築のため特別委員会を立ち上げ、雑協として対応していきま

す。雑誌流通に目を向けると「2024年問題」が迫っています。今年4月から時間外労働の上限が年960時間になりま。輸送業界とは対話を密にし、日本出版取次協会と一昨年に実現した「週5日以内稼働」を原則に同じく4

月からの「年間発売日カレンダー」を定めました。完全休配日は昨年より12日ふえて37日となります。また11月には、日本出版販売がコンビニへの雑誌配送撤退が報道されました。これはまだ流動的な要素も多いと感じま。コンビニの雑誌売上げは縮小傾向にあるとはいえ、大きな市場です。読者にしっかり届ける原点を踏まえた解決が望まれます。

10月の理事会に大宅壮一文庫の鳥山専務理事が来られ、ネット検索の台頭とコロナ禍で運営が危機的状況にあるとの説明がありました。我々雑誌関係者は資料提供者であり恩恵を受ける最大の利用者でもあります。雑協は、法人として賛助会員になることとして「出版クラブだより」をお読みの皆様にも、支援の輪に加わっていただけることをお願いする次第です。

雑誌は優れたメディアです。書籍よりも迅速に、ネットよりも深く正確に情報を届けられます。昨春、プロ野球のWBCで日本が世界一になり増刊号やムックが大いに売れました。また「週刊東洋経済」ChatGPT特集号は異例の3刷、「BE・PAL」も昨年は4回も完売したそうです。雑誌はまだまだ元気です。

(集英社会長)

我が国唯一の 出版関連産業専門金融機関

本の香りのする街には文化信用がある

文化産業信用組合

<https://www.bunka-shinyo.co.jp/>



預金・借入、事業承継など ご相談はお気軽にご連絡ください : 本店 / 千代田区神田神保町1-101 ☎3292-2711

日本出版取次協会会長の挨拶



“当たり前前”のことなど

一つもない

近藤 敏貴

(こんどう・としたか)

明けましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。

出版文化を流通面から支える我々にとって、数年来頭を悩ませてきた年がやってきました。所謂「2024年問題」です。

「働き方改革関連法」の適用に伴い、2024年4月1日から自動車運転業務、例えばトラックドライバーの労働時間に制限が設けられ、年間時間外労働は960時間が上限となります。物流・運送業に携わる方々が安心安全で、心身ともに健やかに働くことができるように環境を整える、ということ自体はとてもポジティブなことですが、事業を支えるのは人であり、人を蔑ろにする事業に未来はありません。

させて頂きました。従来よりも配送にプラス1日を要すこととなる当該エリアの書店様にはご不便をおかけしてしまふことになりまふ。大変心苦しいのですが、出版流通の維持継続の為、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

流通は、出版サプライチェーンを支える根幹です。過去70年に亘って維持されてきた出版流通ですが、それは当たり前前に存在する仕組みではありません。日本型の出版流通ネットワークは世界でも他に例がなく、雑誌流通をベースにして、書籍流通がそこに相乗りしているという特殊な構造のもとに成立しています。雑誌と書籍の二つを両輪として回っているのがこの国の出版流通なのです。

匹敵するくらいインパクトを出版流通に与えることなるでしょう。

もし今、これらの山積する流通課題に対して、しかるべき手立てを講じることができなければ、あるいはタイミングを逸してしまえば、この国の出版流通は実にあっけなく止まってしまいます。製本された本が、どこに搬入されることもなく、印刷会社の倉庫に積み上げられたままになる。いつまで経っても書店店頭には届かない。いずれインターネット書店の在庫も尽き、全ての商品が「現在ご注文できません」の表示から変わらぬ。宅配事業者が代わりに本の配達を請け負い始めるも、400円の本を1冊届けてもらうのに400円の送料が掛かる。果たしてそこで紙の本はどれだけの人々に求められるでしょうか。一層デジタル化が進むだけ、そのデジタル化が進むだけ、一つ間違えれば起こりうるのです。そのような想像力を持って現在を見つめなければいけません。

業界の未来を想像するため、本と書店の未来を一緒に考える場、出版業界がもつと世間に開かれたものへ変わっていく場。そうした場を開いたのが、昨年第2回を開催した「BOOK MEET NEXT」です。実行委員長として、ご協力頂いた全体的に感謝申し上げます。期間中の店頭POSは全国平均前年比94.4%に対し、イベント等に積極的に取り組んだ書店様とそうでない書店様とでは、前者は前年比94.9%、後者は93.5%と、1.4ポイントの差が付いています。(トーハン調べ)店頭POSが低空飛行を続ける中でこの差は大きいです。

11月の京都ブックサミットには一般のお客様も多く来場し、盛況のうちに無事クロージングすることができました。日本の出版文化のエネルギーを世に伝え、店頭の活性化を図るという目的をしつかりと果たし、次回へ繋げることができたと思っております。ですが、まだまだ充分ではありません。3回目となる今年には、更に多くの方を巻き込んだ取り組みで、一人でも多くの方に読書の楽しさ、本屋の面白さを伝えられればと思っております。業界の総力を挙げて、全員で、一緒に、やっていきたいと思います。

本年も何卒宜しくお願い申し上げます。

(トーハン社長)

出版記念会

喜びを分かち合える出版人のホールでお祝いの会を。

★会報「出版クラブだより」にてご紹介して、祝賀申し上げます。



受賞祝賀会

受賞の荣誉に輝く喜びを祝賀する集いに、出版クラブホールを。

★ご案内状の作成、印刷、宛名書き、贈呈記念品、花束など、お手伝いのむきもお申しつけ下さい

●ご予約・お問合わせ

出版クラブホール

Tel 03(5577)1511 千代田区神田神保町1-32 出版クラブビル

日本書店商業組合連合会会長の挨拶



確かな一歩を

矢幡 秀治

(やはた・ひではる)

あけましておめでとうござ
います。旧年中は大変お世話
になりました、心より御礼を
申し上げます。

さて、新型コロナウイルス
も昨年五月に第五類へと移行
され、ここに来てようやく終
息を迎えたといえるでしよ
う。

この結果、入出が元に戻り
外国からは多くの観光客が日
本を訪れるようになりまし
た。景気も上向いているよう
に思います。

しかしながら、書店への客
足は遠のくばかりです。コロ
ナ禍を経て、書店へ足を運ぶ
習慣がなくなってしまうたの
ではないかと思うほど悲惨な
状況です。私の周りでも多く
の書店が店をやめていって
います。強い危機感を感じざる
を得ません。

そのような状況ではありま
すが、昨年には読書月間「B
OOK MEETS NEXT」の一環として、全国各地

の書店でイベントを開催する
とともに、「KYOTO BOOK
SUMMIT」が盛大
に開催され、一般の方々も数
多く参加しました。全国規模
での読書推進活動ができた
と思っております。

子どもの手掛けている「秋
の読者還元祭」では、昨年、
キャンペーン応募総数が30万
名を超え、更に定着してきた
と自負しております。これも
数多の出版社、取次会社のご
支援の賜物と感謝いたしま
す、より一層のキャンペーン
拡大に向けて、今年も引き続
きご協力くださいますようお
願い申し上げます。

また、東京都書店商業組合
では東京都より助成をいただ
き、3回目となる「デジタル
サイネージの活用とNFTを
景品とする謎解きイベントキ
ャンペーン」を実施していま
す。こういった店頭活性化の
取組みが、全国へ広がること
を期待しています。

一方、自民党内に組織され
た「街の本屋さんを元気にし
て、日本の文化を守る議員連
盟」では、議員の皆様のご尽
力により、出版文化に関わる
文言を骨太の方針に記載して
いただくことができました。
ささやかな一歩かもしれませ
んが、今まであまり注目され
てこなかった書店存続の危機
を、少しでも多くの方に認識
していただくことができました
思っております。

その結果、文部科学省、経
済産業省、公正取引委員会な
ど各省庁との連携が円滑に進
み、再販契約を基盤とした公
正な競争の環境整備、図書館
納入に当たつての地産地消な
ど、課題解決に繋がる議論が
進むと確信しています。
数年来お願いして参りまし
た「30%以上の粗利益率」で
は各方面より理解をいただ
き、我々の窮状を改善しようと
多くの施策を進めてくれて
おります。心より感謝を申し
上げます。

こうした様々な動きの中
で、ブックセラーズ&カンパ
ニーの設立はとても興味ある
動きです。新しいビジネスモ
デルともとれます。書店存続
が危機的な状況である今、現
状にとらわれず、真っ直ぐに
利益を求めていくことが急務
だと感じています。
売上げ確保が厳しくなり、
多くの書店が閉店する中、業
績がよいのに事業承継ができ
ず店をやめてしまう書店も数
多くあります。営業を続けて
いる書店からも自分の店の今
後がとても不安であるという
声を聞いています。以前から
言われていたことではありま
すが、本格的に取組む必要が
あると感じています。
書店経営の環境改善、読書
推進活動への取組みなど、日
書連には道半ばの活動目標が
数多くあります。厳しい環境
ではありますが、今年もまた
一歩前進できますように、出
版業界各所の皆様のご支援が
不可欠です。

引き続き読書の大切さを訴
えらるとともに、紙の本に触れ
る人を増やして街の書店が存
続できるように、一年間、全
力を尽くして参ります。全国
の書店をどうぞよろしくお願
い申し上げます。
(真光書店社長)

出版平和堂



問い合わせ：一般財団法人日本出版クラブ
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-32 出版クラブビル 5F
TEL 03(5577)1771 <https://www.shuppan-heiwado.jp/>

一般社団法人
日本雑誌協会

理事長 堀内丸恵
東京都千代田区神田神保町一―三三二
出版クラブビル5F
電話 〇三（三二一九）〇七七五

教育と歩みつづける

株式会社
日教販

代表取締役社長 渡部正嗣
埼玉県戸田市上戸田四―二―三三三
電話 〇四八（四四二）九三一―

出版界で働く皆さんを応援します

出版企業年金基金

理事長 浅野純次
東京都千代田区神田神保町一―三三二
出版クラブビル7F
電話 〇三（五二五九）九一一―

日本紙通商株式会社

代表取締役社長 吉田太
東京都千代田区神田駿河台四丁目六番地
電話 〇三（六六六五）七〇三二

株式会社
東京創元社

代表取締役 渋谷健太郎
東京都新宿区新小川町一番五号
電話 〇三（三二六八）八二〇一

株式会社
千倉書房

代表取締役社長 千倉成示
東京都中央区京橋三―七―一
電話 〇三（三五二八）六九〇一

株式会社
光文社

代表取締役社長 巴一寿
東京都文京区音羽一―一六―六

株式会社
新学社

代表取締役社長 山本伸夫
京都市山科区東野中井ノ上町11―39
電話 〇七五（五八一）六一一九

新年

名刺交換

到着順に掲載させていただきました。

一般社団法人
日本出版取次協会

会長 近藤敏貴
東京都千代田区神田神保町一―三三二
出版クラブビル6F
電話 〇三（三二一九）六七六三

株式会社
あかね書房

代表取締役社長 岡本光晴
東京都千代田区西神田三―二―一
電話 〇三（三二六三）〇六四一

新生紙パルプ商事株式会社

代表取締役社長 三瓶悦男
東京都千代田区神田錦町一―八
電話 〇三（三二五九）五〇八〇

株式会社
偕成社

代表取締役 今村正樹
東京都新宿区市谷砂土原町三―五
電話 代表 〇三（三二六〇）三三二一

株式会社
メヂカルフレンド社

代表取締役 亀井淳
東京都千代田区九段北三―二―四
電話 〇三（三二六四）六六一一

株式会社 芳文社

代表取締役社長 孝壽尚志
東京都文京区後楽一丁目二番一〇号
電話 〇三(三三八一五)一五二一(代表)

TOMOWEL 共同印刷株式会社

代表取締役社長 藤森康彰
東京都文京区小石川四一四一二
電話 〇三(三三八一七)二二二(代表)

医歯薬出版株式会社

代表取締役社長 白石泰夫
東京都文京区本駒込一七七一〇
電話 〇三(五三九五)七六〇〇

全日本製本工業組合連合会

会長 田中眞文
東京都板橋区大和町二十八一十一
電話 〇三(五二四八)二三七一

想いを確かなカタチに
藤原製本株式会社

代表取締役 藤原智之
本社事業所 東京都西京区牛ヶ瀬新出強町六一
カクレスト事業部 東京都千代田区神田淡路町一三三
ケイアイシヤトービル一階
HP:https://fujiwara-bb.co.jp

賀 謹
——新春紙上

賜りました名刺広告、年頭所感は

株式会社 双葉社

代表取締役社長 戸塚源久
東京都新宿区東五軒町三番二八号
電話 〇三(五二六)四八一

株式会社 少年画報社

代表取締役 戸田利吉郎
東京都千代田区西神田二一八一五
電話 〇三(三二六二)三三〇一

株式会社 秋田書店

代表取締役社長 樋口茂
東京都千代田区飯田橋二丁目十番八号
電話 〇三(三二六四)七〇一一(代表)

有限会社 富山房

代表取締役社長 坂本起一
東京都千代田区神田神保町一三三
電話 〇三(三三二九)二一七一

100年の笑顔夢 100年先の未来も
株式会社 金の星社

代表取締役社長 斎藤健司
東京都台東区小島一丁目四番地三号
電話 〇三(三三八六一)一八六一

株式会社 KPSホールディングス

代表取締役社長 峰岸延也
東京都文京区目白台三一一九一八
電話 〇三(三九四六)一三四〇

株式会社 世界文化ホールディングス

代表取締役社長 鈴木美奈子
東京都千代田区九段北四一三二二九
電話 〇三(三三二六)五一一一

株式会社 養賢堂

代表取締役社長 及川雅司
東京都文京区本郷5丁目30番15号
電話 〇三(三八一四)〇九一一

日本図書普及株式会社

代表取締役社長 平井 茂

〒162-0843 東京都新宿区市谷田町二丁目1番13号
TEL(03)32671231

日本文教出版株式会社

代表取締役社長 佐々木 秀樹

大阪市住吉区南住吉四丁目七番五号
電話 〇六(六六九二)一二六一

株式会社 オーム社

代表取締役社長 村上 和夫

東京都千代田区神田錦町三丁目一
電話 〇三(三二二二)〇六四一

株式会社 竹尾

代表取締役社長 竹尾 稠

東京都千代田区神田錦町三丁目二二番六号
電話 〇三(三二九九)三六一一

株式会社 緑書房

代表取締役会長 森田 猛

代表取締役社長 森田 浩平

東京都中央区東日本橋三丁目一四番四号
電話 〇三(六八三三)〇五七〇

大日本図書 株式会社

代表取締役社長 中村 潤

東京都文京区大塚三丁目十一番六号
電話 〇三(五九四〇)八六七〇

株式会社 佼成出版社

代表取締役社長 中沢 純一

杉並区和田二丁目七番一
電話 〇三(五三八五)二三二一(代)

株式会社 日本スポーツ企画出版社

代表取締役社長 竹谷 鋭

東京都文京区本郷二丁目33番5号
電話 〇三(三八一五)三六六三

大日本印刷株式会社

代表取締役社長 北島 義斉

東京都新宿区市谷加賀町一丁目一
電話 〇三(三二六六)二二一一

株式会社 南江堂

代表取締役社長 小立 健太

東京都文京区本郷三丁目四二番六号
電話 〇三(三八一一)七二四〇(代表)

株式会社 主婦と生活社

代表取締役社長 高納 勝寿

東京都中央区京橋三丁目5番7号
電話 〇三(三五六三)五二二〇

実教出版株式会社

代表取締役社長 小田 良次

東京都千代田区五番町五番地
電話 〇三(三三三八)七七〇〇

丸善出版株式会社

代表取締役社長 池田 和博

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町二丁目七番六号
電話 〇三(三三五一)三二五六

日本製紙株式会社

代表取締役社長 野沢 徹

東京都千代田区神田駿河台四丁目六番五号
電話 〇三(六六六五)一一一一



日本加除出版株式会社

代表取締役社長 和田 裕

東京都豊島区南長崎三丁目一六番六号
電話 〇三(三九五三)五七五七

OVOL

日本紙パルプ商事株式会社

代表取締役社長 渡辺昭彦
社長執行役員

東京都中央区勝どき三丁目12番1号
フォアフロントタワー
電話 〇三(三五三四)八五二二

株式会社 有斐閣

代表取締役社長 江草貞治

東京都千代田区神田神保町二一七

創立1927年



株式会社 コロナ社

代表取締役社長 牛来真也

東京都文京区千石四一四六一〇
電話 〇三(三九四一)三一三一(代)



株式会社 文理

代表取締役社長 安達健一

東京都品川区西五反田二一十一八
電話 〇三(六四二一)七一五〇



株式会社 工藤出版サービス

代表取締役社長 工藤裕樹

東京都板橋区前野町4-40-18
電話 〇三(三九六五)五一〇一

図書印刷株式会社

代表取締役社長 川田和照

東京都北区東十条三ー一〇一三六
電話 〇三(五八四三)九七〇〇



株式会社 チャイルド本社

代表取締役社長 大橋潤

東京都文京区小石川5丁目24番21号
電話 〇三(三八一三)三七八一

光村図書出版株式会社

代表取締役社長 吉田直樹

東京都品川区上大崎二一九一九
電話 〇三(三四九三)二二一一



since 1890

株式会社 増進堂・受験研究社

代表取締役社長 岡本明剛

大阪市西区新町二一九一五
電話 〇六(六五三二)一五八一

上毛印刷株式会社

代表取締役 大澤丈太

東京都豊島区南池袋二丁目三番五号
電話 〇三(三九八四)八五七六

昭和図書株式会社

代表取締役社長 永井真士

東京都千代田区神田神保町2丁目30番地
電話 〇三(三二二六一)五五〇一



共立出版株式会社

代表取締役社長 南條光章

東京都文京区小日向四一六一九
電話 〇三(三九四七)二五一一

小学館

代表取締役社長 相賀信宏

〒101-8001
東京都千代田区一ツ橋二丁目三番一号

株式会社 八木書店

代表取締役社長 八木唯貴

東京都千代田区神田小川町三十八
電話 〇三(三二九九)二九六五



日本出版販売株式会社

代表取締役社長 奥村景二

千代田区神田駿河台四一三

株式会社 小学館集英社プロダクション

代表取締役社長 都築伸一郎

東京都千代田区神田神保町二一三〇
電話 〇三(三五一一五)六八〇二

株式会社 旺文社

代表取締役社長 糸川秀樹

東京都新宿区横寺町五五
電話 〇三(二二五六)六四〇〇

株式会社 永岡書店

代表取締役社長 永岡純一

東京都練馬区豊玉上二一七一四
電話 〇三(三九九二)五一一五



光村教育図書株式会社

代表取締役社長 湯地修治

東京都品川区西五反田二丁目27番4号
電話 〇三(三七七九)〇五八一

株式会社 白泉社

代表取締役社長 菅原弘文

東京都千代田区神田淡路町二二二二
電話 〇三(三五二二)八〇〇〇

株式会社 裳華房

代表取締役社長 吉野和浩

東京都千代田区四番町八ノ一
電話 〇三(三二六二)九二六六

株式会社 図書文化社

代表取締役社長 則岡秀卓

東京都文京区大塚一四一四一五
電話 〇三(三九四三)二五二一(代)

株式会社 一迅社

代表取締役社長 野内雅宏

東京都新宿区新宿三一一一三
京王新宿追分ビル五階
電話 〇三(五三一)六一六四

株式会社 文藝春秋

代表取締役社長 飯窪成幸

東京都千代田区紀尾井町三二二三
電話 〇三(三二六五)一一二一

株式会社 八重洲出版

代表取締役 酒井雅康



本社 東京都中央区八丁堀四・五・九(エイトビル)
電話 〇三(五二一八)四三三三 FAX 〇三(五二一八)三三三三
支社 東京都千代田区大塚南吹田駅前(アサヒビル)905号
電話 〇三(五二一八)八二二二 FAX 〇三(五二一八)八三三三

株式会社 光和コンピュータ

代表取締役 寺川光男

東京都千代田区岩本町三一―一二
岩本町東洋ビル
電話 〇三(三八六五)一九八一



株式会社 童心社

代表取締役社長 後藤修平

東京都文京区千石四一六一六
電話 〇三(五九七六)四一八一

株式会社 第一学習社

代表取締役 松本洋介

広島市西区横川新町七丁目一四番
電話 〇八二(二三三四)六八〇一

出版健康保険組合

理事長 高井昌史

東京都千代田区神田駿河台一七

TOPPANホールディングス株式会社

代表取締役社長 CEO 齋秀晴

東京都文京区水道一―三―三
電話 〇三(三八三五)五一一一

株式会社 内田老鶴圃

代表取締役社長 内田 学

東京都文京区大塚三丁目三四番三号
電話 〇三(三九四五)六七八一

株式会社 婦人之友社

代表取締役 入谷 伸夫

東京都豊島区西池袋二二〇一六
電話 〇三(三九七二)〇二〇一



株式会社 KADOKAWA

取締役 代表執行役社長 夏野 剛

東京都千代田区富士見二二二一三

株式会社 ベースボールマガジン社

代表取締役社長 池田 哲雄

東京都中央区日本橋浜町二一六一一九
TIE浜町ビル
電話 〇三(五六四三)三八八〇

一般社団法人 教科書協会

会長 星野 泰也

東京都江東区千石一丁目九番二八号
電話 〇三(五六〇六)九七八一

株式会社 徳間書店

代表取締役社長 小宮 英行

東京都品川区上大崎三一一一
目黒セントラルスクエア

日本書店商業組合連合会

会長 矢幡 秀治

東京都千代田区神田駿河台一一二
電話 〇三(三二九四)〇三八八

株式会社 新興出版社啓林館

代表取締役社長 佐藤 諭史

大阪府天王寺区大道四丁目三番二五号
電話 〇六(六七七九)一五三一

株式会社 中央社

代表取締役社長 森岡 憲司

東京都板橋区東坂下一一一八一五
電話 〇三(三五五八)一一〇二

株式会社 扶桑社

代表取締役会長 久保田 榮一

代表取締役社長 小池 英彦

東京都港区芝浦一一一一
浜松町ビルディング
電話 〇三(六三六八)八八五一

株式会社 博報堂

代表取締役社長 水島 正幸

東京都港区赤坂五三三一一
赤坂Bizタワー
電話 〇三(六四四二)八一一一

株式会社 彰国社

代表取締役社長 下出 雅徳

東京都新宿区富久町八一二二
電話 〇三(三三五九)三三三一



株式会社 学研ホールディングス

代表取締役社長 宮原 博昭

東京都品川区西五反田二一一一一八
電話 〇三(六四三二)一〇〇一

株式会社 文英堂

代表取締役社長 益井 英郎

東京都新宿区岩戸町一七
電話 〇三(三二六九)四三三一

株式会社 中央経済社ホールディングス

代表取締役会長 山本 継

代表取締役社長 山本 憲央

東京都千代田区神田神保町一一三五
電話 〇三(三二九三)三三七一



電気書院

代表取締役社長 田中 聡

〒101-0051
東京都千代田区神田神保町一三
ミヤビル2F
電話 〇三(五二五九)九一六〇

日本工業出版株式会社

代表取締役社長 小林 大作

東京都文京区本駒込六一三一二六
電話 〇三(三九四四)一一八一(代)

数研出版株式会社

代表取締役社長 星野 泰也

東京都千代田区神田小川町二一三三
電話 〇三(五二八三)六〇〇一

株式会社帝國書院

代表取締役社長 佐藤 清

東京都千代田区神田神保町三一二九
電話 〇三(三二六二)四七九五(代)

集英社

代表取締役社長 廣野 眞一

〒10118050
東京都千代田区一ツ橋二一五一〇

有限会社ベレ出版

代表取締役社長 内田 真介

東京都新宿区岩戸町一二
レベッカビル
電話 〇三(五二二五)四七九〇

学校図書株式会社

代表取締役社長 芹澤 克明

東京都千代田区神田淡路町二一三一一
電話 〇三(六二八五)二九一六

一般社団法人日本書籍出版協会

理事長 小野寺 優

東京都千代田区神田神保町一三三二
出版クラブビル5F
電話 〇三(六二七三)七〇六一

株式会社図書館流通センター

代表取締役社長 谷一 文子

東京都文京区大塚三丁目一番一号
電話 〇三(三九四三)二二二二(代)

株式会社第三文明社

代表取締役社長 大島 光明

東京都新宿区新宿一三三三十五
電話 〇三(五二六九)七二四一(代表)

一般社団法人自然科学書協会

理事長 池田 和博

東京都千代田区神田神保町一〇一
神保町10ビル3階
電話 〇三(五五七七)六三〇一

ひかりのくに株式会社

代表取締役社長 岡本 功

大阪市天王寺区上本町三一二十四
電話 〇六(六七六八)一一五一

一般社団法人金融財政事情研究会

理事長 加藤 一浩

東京都新宿区南元町一九番地
電話 〇三(三三五八)〇〇一一



株式会社講談社

代表取締役社長 野間省伸

東京都文京区音羽二二二二二



株式会社東洋経済新報社

代表取締役社長 田北 浩章

東京都中央区日本橋本石町一一二一
電話 〇三(三二四六)五四〇四

株式会社 トーハン

代表取締役社長 近藤 敏貴

東京都新宿区東五軒町6番24号
電話〇三(三二六九)六一一

聖教新聞社

代表理事 萩本直樹

東京都新宿区信濃町7番地
電話〇三(三三三三)六一一

株式会社 春陽堂書店

代表取締役 伊藤良則

東京都中央区銀座三〇一〇一丸
KEC銀座ビル五階 五〇三号
電話 〇三(六二六四)八五五
FAX 〇三(六二六四)〇八五六

株式会社 マガジンハウス

代表取締役社長 鉄尾周一

東京都中央区銀座三一一三一一〇
電話 〇三(三五四五)七一一

株式会社 小峰書店

代表取締役社長 小峰広一郎

東京都新宿区市谷台町四番一五号
電話 〇三(三三五七)三五一

株式会社 河出書房新社

代表取締役 小野寺 優

東京都渋谷区千駄ヶ谷2丁目32番2号
電話 〇三(三四七八)三二五一

KPPグループホールディングス株式会社
国際紙・パルプ商事株式会社

代表取締役社長 執行役員

栗原 正

東京都中央区明石町六一二四
電話 〇三(三五四二)四一六六(代)

株式会社 メイツユニバーサルコンテンツ

代表取締役社長 大羽 孝志

東京都千代田区平河町二丁目一番地八号
電話 〇三(五二七六)三〇五〇

産業図書株式会社

代表取締役 飯塚尚彦

東京都千代田区飯田橋二一一一三
電話 〇三(三二六二)七八二一

株式会社 出版共同ビル

代表取締役 相賀 信宏

東京都千代田区神田神保町一一三三二
電話 〇三(五五七七)一七七二

株式会社 読書人

代表取締役社長 明石健五

東京都千代田区神田神保町一一三三五
富士房ビル6F
電話 〇三(五二四四)五九七五



株式会社 建帛社

代表取締役社長 筑紫和男

東京都文京区千石四丁目二番十五号
電話 〇三(三九四四)二六一一

株式会社 恒星社厚生閣

代表取締役 片岡一成

東京都新宿区四谷三栄町三一一四
電話 〇三(三三五九)七三七二

株式会社 博文館新社

代表取締役 大橋一弘

東京都荒川区荒川五一九一七
電話 〇三(六四五八)三八三八

出版平和堂維持会

会長 江草 貞治

東京都千代田区神田神保町一一三三二
日本出版クラブ内
電話 〇三(五五七七)一七七二

新春紙上名刺交換

= 2024年 年頭所感 — 出版人の声 =

ノンフィクションに感動

青木 康晋

「朝日」を離れて1年半、いま週3日がGakken顧問、週2日が福島県いわき市の東日本国際大特任教授という生活です。このトシ(64歳)で声がかかるのはうれしい。新しい職場で初めての経験をするのも悪くない。いわきといえば、大宅賞や講談社本田靖春ノンフィクション賞を受賞した伊澤理江さん『黒い海 船は突然、深海へ消えた』(講談社)はこが舞台の作品で、感銘を受けました。(Gakken顧問、前朝日新聞 出版社長)

人間は何処で欲望と決別できるか

志村 孚城

人類の発展の源は「欲望」であると言われている。果てしない探求欲は人類を月へと運んだが、征服欲は戦火を引き起こし、互いの煩惱により人類滅亡の道に進み出しているように見える。しかし、人類は「知」の発達をもって「欲望」と対抗してきた。哲学や宗教などであるが、現在その役割を果たすものが欠けている。ここで、「知」の発達を支えてきたのは紙と文字の文化であると出版界は再認識し、人類の「知」の研鑽に力を貸して頂きたい。

図書館との新しい関係

鈴木 宣幸

2024年は、協議を重ねてきた図書館収蔵資料の図書館等公衆送信サービスがようやく本格始動する。改正著作権法で定められた「特定図書館」に国立国会図書館がなるためだ。出版社には、図書館の販売購入だけでなく、著作権者の補償金をやりとりする間柄になる。対価を払うこのサービスが調査研究に資することになって生まれる価値が、出版物として還元される、そんな近い将来を願ってやまない。(日本雑誌協会専務理事)

板橋区

工藤 裕樹

新年明けまして、おめでとう御座います、本年もよろしく、御願い申し上げます。昨年本社がある板橋区でグループ会社、株式会社工藤商店が、「いたばし人と未来を創る会社賞」を受賞致しました。板橋区は絵本の街をアピールしています。有名なのはイタリアアポロニヤ市立サラボルサ児童図書館との姉妹図書館があります。また板橋区は印刷、製本業が多く文化を支えてきました。今後も板橋区や文化に貢献致します。(工藤出版サービス代表取締役)

紙メディアはどうなる？

岡崎 満義

なんでもスマホ、スマホ全盛時代になった。私はスマホは雑誌殺しの親玉だから、スマホは持たないことにしている。そんな妙な自己主張はやめて、スマホを持つたら世界観も変わりますよ、と、生命保険のおばさんに笑われている。私は40年、雑誌編集者として生活してきた。ありがたい「紙II神サマ」時代であった。電車に乗っても、本を開いている人はなく、スマホをいじっている人はばかりだ。紙メディアはこれからどうなるか。(元文藝春秋編集長)

出版広告が面白い

能勢 仁

朝の楽しみの一つに、朝刊の出版広告を見ることがある。最近様変わりしたのが女性週刊誌の広告である。これまでは半五段広告の中に、縦組み、横組みが交錯していて目が回る出広であった。最近は縦か横に統一され見易くなった。三つ広告も変化している。単品広告、複数広告があるが、新刊の味には変りはない。版元、書店、読者を繋ぐ紙面である。大事にしたい。新聞不読者が増えているが、新聞と出版広告は消えない。(ノセ事務所代表取締役)

デジタルの時代

中井 泉

会議はウェブ形式になり、映画は配信サービスで見えるようになった。一方、日本には外国人が溢れるようになった。高価な旅費を払ってでも、五感で感じたのだ。2024年はますますデジタル化が進み、一方で実体のあるものにはもつと付加価値を感じるようになるのではないかと。デジタル本と印刷物は現在同じ価格で取引されているが、印刷物を貴重品として高い値付けをしても良いのではないかと。一読者としてそう思う。(島津理化代表取締役社長)

外野席より

中濱 久

謹んで年頭の御祝詞を申し上げます。「出版クラブだより」毎号現役の皆様の御活躍や偉大な先達の足跡等楽しく拝し、また出版歳時記では、出版業界の、今昔を御教示頂いております。昨年は出版クラブ創立七十周年をお迎えになり心よりお祝いを申し上げます。出版が担う文化知識情報の伝達は重要な役割です。読書は読者に想像力・創造性・思索性の楽しみを与える文化です。文化の担手・出版界の御発展を心から外野席より祈念します。(共同印刷元専務取締役)

年頭所感

川瀬 真

新年あけましておめでとうございます。日本複製権センターは、新聞、雑誌等の複製権を集中的に管理し、企業、団体、官公庁等に利用の許諾を行っている中核的な管理事業者です。コンテンツの流通促進は政府の重要な課題となっていますが、これを実現するためには集中管理制度の充実が欠かせません。この期待に応えられるようこれからも管理範囲の拡大等に努力し、利便性の向上を図っていきたいと思っています。(日本複製権センター代表理事)

いつだって「過渡期」

巴 一寿

新年あけましておめでとうございます。ビジネスシーンでよく聞く言葉。でも過去もいつだって、どんな時でも「過渡期」。

そして、2024年も、もっと未来も、ずっと過渡期。

時代の流れを読み解き、時流に乗り、進化を遂げなければならぬのだから。

だから、いつだって「過渡期」を自分ごとにしようと思った2024年の目覚めでした。

(光文社代表取締役社長)

巨人ファンに
復帰します

小立 鉦彦

中田翔選手が巨人と契約解除になり、原監督も退団となった。2021年8月に当時の監督原が「温情」の下に暴行無期限出場停止の中田を日ハムから獲得。原独断即実戦復帰。この経過に巨人ファンとしてあきれ果てる。原はほかにも既に句を過ぎていた中島、炭谷を、まるで原チルドレンの如く入団させ起用。生え抜きの若手飛躍の芽を摘んでいる。その「原人脈」が誰もいなくなった今シーズン。また巨人ファンに復帰しよう。

(南江堂代表取締役会長)

シンギュラリティ

寺川 光男

「AIを使いこなす人間がAIを使いこなせない人間の仕事を奪う」と言われています。ChatGPTを使ってみましたが想像以上のテクノロジー……。何を解決したいのか、問いを生み出す人間の役割は変わりません。一方、人間の脳と同じレベルが誕生する時点を表すシンギュラリティ。人類の知性と機械の知性が融合する事で人新世の激しい現実を克服できるのででしょうか。テックノロジーとしっかりと向き合って歩みたいと思います。

(光和コンピューター代表取締役社長)

経営に役立つ書籍

戸羽 節文

新年明けましておめでとうございます。企業が存続していくためには、顧客に品質の良い製品・サービスを提供し、その対価を得ていく必要があります。良い品質の製品・サービスを提供することは経営の目的であり、その方法論がTQMです。本年もみなさまの経営に役立つTQM関連書を数多く出版してまいります。みなさま方には、本年も一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(日科技連出版社代表取締役社長)

年頭の所感

森岡 憲司

謹んで新春のご祝詞を申し上げます。新型コロナウイルスが第5類感染症に移行し、街に活気が戻っています。多くの人々が本屋さんに行き本を読む世の中が実現できるように、中央社は今後共安定した商品供給を継続するとともに、お得意様のさらなる飛躍を期して、新しい挑戦に取り組んでまいります。本年10月に中央社は創立75周年を迎えます。

(中央社代表取締役社長)

出版業界の発展に
貢献します

鐘ヶ江 弘章

明けましておめでとうございます。目まぐるしいスピードで情報技術は進化していきますが、しっかりとその本質を見据えながら、「出版広告」「出版システム開発」の分野で業界の発展に貢献する仕事ができるよう本年も努めて参ります。みなさま、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

(とこう・あい代表取締役社長)

REBORNの次を目指して

川上 浩明

いま弊社では2024年4月以降の中期経営計画を煮詰めています。管理職や若手も交えて盛んに議論していますが、5年前の「REBORN」計画策定時よりも、社員の熱量や当事者意識の高まりを強く感じます。「REBORN」を通じて弊社は出版流通の維持・改革にも多少の寄与ができたと思っておりますが、まだまだ道半ばです。今年も大勢のステークホルダーの皆様と強く連携し、次の時代を目指して一つ一つ手を打っていきます。

(トーハン代表取締役副社長)

2度目の新社屋落成

戸田 利吉郎

古い話で恐縮です。今から67年前の昭和34年11月「少年画報社」の新社屋が落成しました。当時、私は漫画好きの中学2年生。創業者の今井堅氏が「赤胴ブーム」に乗って土地を購入し、水道橋駅近くに5階建てのビルを建てたのです。それから長い年月が過ぎました。私が社長を拝命してから15年になります。社屋にも傷みが増え、地震の影響もあり、新ビルへ向けてGOサインを出しました。正月明けに8階建ての白いビルを、是非とも御覧くださいませ……。

(少年画報社取締役社長)

年頭の御挨拶

花村 博文

謹んで新春の御祝詞を申し上げます。平素より、多くの方々から、矯正施設の被収容者の改善更生や円滑な社会復帰等に御協力いただいておりますこと、厚く御礼申し上げます。

読書は、情操を育み、多様な考え方に触れて視野を広げる貴重な機会であり、これは矯正施設の被収容者にとっても同様です。これからも被収容者処遇の充実に努めてまいりますので、引き続き、御理解・御支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

(法務省矯正局長)

社会貢献と出版社

大島 光明

73・4%—この数字は「SDGs」について知っている」と回答した若者(中学生から大学生)の割合だ(日本総研)。同じ調査では「社会課題解決に役立ちたい」と答えた若者の割合が5割を超えたという。企業による社会貢献は、さらに重要になっていく。手前味噌になるが、昨年末、「SDGsな仕事」という本を発刊した。これからは、社会課題を解決する知を発信する役割が、ますます出版社にも求められていくことだろう。

(第三文明社代表取締役社長)

読書推進で未来を拓く

高井 昌史

一昨年から、読書の秋を出版業界全体で盛り上げることを目指して、新しい枠組みでの読書推進キャンペーンが行われており...

次の50年に向けて

盛崎 宏行

新年明けましておめでとうございませぬ。昨年、弊社の基幹ブランド「るるぶ」が50周年を迎え...

役社長執行役員

前を見据えて

伊東 孝

コロナも五類に分類され規制なしでの地域祭事や各種イベントでようやく人流も活発化、反面...

新年のご挨拶

田中 眞文

あけましておめでとうございませぬ。日頃より皆様には会員各社が、大変お世話になり、感謝申し上げます...

(全日本製本工業組合連合会会長)

本質に立ち戻るとき

太田 宏

申すまでもなく、出版にまつわる環境は、いっそう厳しさを増すことが予測されます。こうした激変の時代に、出版活動を行ううえで大切なことはな...

小学5年生は賢い

児玉 幸彦

若者は本を読まない、などと言われて久しいが、統計上では「仕事や勉強で忙しいため」が過半数もあり、スマホ・ゲーム・マンガなどより読書率は高いとのことだ...

(出版同代会顧問 元双葉社)

今年はいよいよ

岡本 明剛

人々がマスクから解放され、ようやく明るさが戻ってきたようです。しかし、ウクライナに続き、中東での軍事衝突で、世界平和は揺らいでいます。どうか穏やかで幸多い一年となるよう祈るばかりです。

日教販春季展示大市会リアル開催！

渡部 正嗣

あけましておめでとうございませぬ。今年には待ちに待った小学校の改訂、新年度の大学入試改革と、今から期待が膨らみます。新型コロナウイルスの影響も収まりつつある中、弊社は四年振りに「日教販春季展示大市会」をリアル開催いたします。

(日教販代表取締役社長)

一流の経理になる

矢次 行多

25年間、出版営業だった私が、経理に異動となったのが3年前。経理以外にも社内様々な業務を担当しており、いかに自分が井の中の蛙であったかを思い知らされている。編集は創り手、営業は稼ぎ手。翻って経理は基本的に能動的な利益は生まない。

平和な世界

芹澤 克明

大きな二つの国のバランスで世界が成り立っていた時代、平和への道筋が明確であったような気がする。多様化した今の世界では、多くの意見を聞かなくてはいいけない。話し合いの妥協点や合意を見つけることが難しく、時間がかかる。そこで、面倒だなと思った人々が強い意見のもとに集まってしまふ。民主主義は面倒くさいのが利点だ。議論にどれだけ時間がかかってもしその間は平和でいられる。話し合いの道は塞いではいけない。

(学校図書代表取締役社長)

年頭所感

小出 元一

書籍文化の維持・発展にとって出版はもちろん、図書館もまた少なからぬ役割を果たす存在です。これまで千代田図書館は出版社やその関係団体と定期的な情報交換を行い、数多くの企画連携を進めてきました。そして今、デジタル技術が進む急激な社会変化を目の当たりにして、従来の枠に捉われない新たな図書館の役割が必要だと考えています。図書館でこんなことあんなことはできないか、是非お問い合わせてください。

(千代田図書館館長)

国立大学法人法「改正」問題

山下 正

新しい年を迎え、日本社会は多くの難題に直面している。政府の「改革」政策はその場しのぎで、先を見通す方策とは程遠い。研究・教育分野では、国立大学法人法「改正」問題だ。東北大・東大など五校を「特定国立大学法人」に指定、大学の最終意志決定機関としての「合議体」の設置を義務づけ、合議体の委員選定には文科相の承認が必要だ。政府の新たな大学自治への介入で、大学の自主性を破壊し、大学を追いつめるだけだ。

(大学出版部協会顧問)

看護にかかわるすべての皆様をサポートする

亀井 淳

当社では「看護師を目指す学生及び看護師の方々の人生・生活をトータルにサポートする」というミッションを新たに掲げ、様々な取り組みを通して、看護にかかわるすべての方々へのサポート活動に取り組んで参りました。昨年11月には「このは[ornurse]という看護学生及び看護師の人生・生活を豊かにする商品や情報の発信基地を新たにオープン致しました。本年も社内外のDX化を推進し、看護業界に貢献して参ります。

(メヂカルフレンド社代表取締役社長)

ことばと読書

佐々木 泰

私ごとだが、「物心つく前」からの阪神ファンだ。昨年は何んとも幸せな年だったが、舌を巻いたのは岡田監督の言語能力だ。例の「アレ」は、選手を過剰に意識させないための表現だそうだが、ことばが力へとかわり、その力が選手とファンの願いを実現させたようにも思う。常人がことばを学ぶには、なんといつても読書。春の「こども読書週間」秋の「読書週間」を中心に、今年も活発な読書推進運動を展開してまいります。

(読書推進運動協議会事務局長)

年頭所感

山根 毅

あけましておめでとうございませう。昨年は対話型AI「チャットGPT」が世界中で注目されましたが、税務の世界でも、国税庁がAIも活用してDX化を急速に進めています。税務相談においては数年前からAI型チャットボットを導入し、滞納者などに対しては課税・徴収の効率化・高度化に取り組んでいます。当社は、紙媒体に加え、デジタルツールも最大限活用し、さらなる実務情報サービスの充実を図って参ります。

(税務研究会代表取締役社長)

情報端末の活用

設楽 敬一

あけましておめでとうございませう。子どもたちは、情報端末を筆記具として活用しています。手書きの文字を、端末で撮影して共有するなどは、紙を主体にデジタルを活用した好例です。主体的・対話的で深い学びには、自らの課題を明確化することや互いの意見交換をするなど文字を使ったコミュニケーションが欠かせません。学習者主体の学びでは、文章で思考し、批判的思考力の涵養を目指す学校図書館の役割が大切になります。

(全国学校図書館協議会理事長)

本の力で国力を養う

五郎丸 徹

昨年の年頭に岸田首相が「異次元の少子化対策」を表明しました。我が国の出生数はついに70万人台前半の見込となるなど少子化には歯止めがかりませんが、いつの時代も子どもたちの学びを支えてきたのは「出版(本)の力」であり、今後もそれは変わらないでしょう。またリカレント・リスキリングなど大人の学びにおいても本の力が有効です。出版業界の頑張りが人口減少下の日本の国力維持・強化に不可欠であると信じ、本年も邁進してまいります。

(Gakken代表取締役社長)

読書のプラットフォーム

浅野 純次

いつも思うのだが、読書が「面白かった」「役に立った」だけで終わるのはもったいない。気に入った本を人に紹介したり誰かと話し合ったりすることで読書は何倍も活性化します。であれば出版クラブに読書をめぐるプラットフォームが生まれたら何よりではないか。短くていいので「お勧めの本リレー」でも「紙上バトル」でもいい。クラブだよりかホームページか、「いい本」が常に話題になっている場があればと思うのだが、どうだろう。

(出版企業年金基金理事長)

新年のご挨拶

日岐 浩和

新年明けましておめでとうございませう。常日頃本づくりを通じてお世話になっております印刷会社で構成される「出版メディア協議会」を代表してご挨拶申し上げます。世界では宗教、地政学的にまだまだ不安定な情勢ではございますが、国内における新型コロナウイルスによる混乱も落ち着きを見せ、人の動きなども日常を取り戻しつつあります。辰年の今年、出版社様の益々のご発展、ご隆盛を祈念いたします。

(東京都印刷工業組合・出版メディア協議会長)

学びを止めない

宮原 博昭

今なお激しい戦いが続くウクライナの状況に心が痛む。昨年5月、日本にいる避難民のウクライナの子どもたちへ、幼児向けワークブックのウクライナ語版を緊急に印刷して届けた。11月には、ウクライナへ電子黒板を送るクラウドファンディングを開始し、4日で第一目標を達成。返礼品は、キウ国立経済大学博士による特別な学習まんが。こどもたちの学びを止めないために、出版のできることはまだまだある。ガザ地区でもおはなす。 (学研HD代表取締役社長)

年頭所感

加藤 一浩

新年おめでとうございませう。昨年四月、金財グループ二社が経営統合しました。新事業として「KINZAI Next」と名付けたデジタルプラットフォームをスタートしました。いち早く必要な情報を収集できる「新しい学びのカタチ」です。一方で本年一月、四年振りに「業種別審査事典」第十五次新版を刊行します。全10巻一六〇〇業種を収録した業界情報の宝庫です。引き続きデジタルと活字の両面で質の高いサービスの提供を目指します。

(金融財政事情研究会理事)

生きる力を育む教科書

星野 泰也

教科書は、すべての児童・生徒が必ず手にする、最も身近な図書といえるものです。とはいえ、近年では、デジタル教科書の普及に向けた実験が進められており、教科書はその姿・形を大きく変えようとしています。

教科書は、子どもたちの生きる力を育みます。このことは、紙であってもデジタルであっても、変わりありません。そんな教科書の役割に思いを巡らせながら、今年も新しい年の始まりを迎えています。

(教科書協会会長)

「Re:Born」へのチャレンジ

安部 順一

資材費・物流費高騰の「試練が続きますが、まずは皆さま、あけましておめでとうございませう。「試練」を乗り越えるため、弊社は昨年来、「書店員が選ぶ絵本新人賞」の創設など様々な挑戦を続けてきました。今年「Re:Born」にチャレンジしていきます。出版界では「新刊」「既刊」と分けて考えがちですが、読者にとっては出会った本が新刊。今に通じる既刊本を掘り起こし、判型やタイトル、表紙などを時代に即した形で一新し、もう一度世の中に送り出したいと考えています。

(中央公論新社代表取締役社長)

新年を迎えて

湯地 修治

新年明けましておめでとうございませう。出版業界は今年も厳しい状況が続きます。資材価格等の高止まりに加えて物流の24年問題が待ったなし。加えて深刻なのが書店の減少です。一時のデジタルシフトから紙とデジタルの共存に落ち着きつつあるようですが、原因は単にデジタル化や人口減にとどまらないとのこと。いろいろな面で新しい形が求められているのは間違いないく、課題をしっかり見据えて対応していきたいと思ひます。

(光村教育図書代表取締役社長)

圧倒的な読書量を

奥村 景二

圧倒的に読書量が足りない。一年を振り返ってそう気が怖くなった。頭の中には自身の経験を蓄積した体験知と、書物や他人からの教養などの学習知がある。この体験知と学習知を組み合わせ、人は全ての決断を行う。だからこそ学習をもって知識の幅を広げ信用できる判断軸を作り上げていく。上質なアウトプットの為に上質なインプットが必要だという事。圧倒的に足りないインプットの為に、圧倒的に読書量を増やそうと思ひます。

(日本出版販売代表取締役社長)

恩師に学ぶ

石田 哲哉

高校の恩師は、戦時中、十二歳で満州に移り住み、十四歳で平壤（現・ピョンヤン）に移動。終戦後、平壤から京城（現・ソウル）まで一週間徒歩で移動し、仁川を経て博多に引き揚げてきました。

「二度とあってはならないという光景をたくさん見たよ」と、九二歳の今もボランティアで戦争の語り部を続けています。「二度とあってはならない光景」を子どもたちに見せないために、もう一度、仕事の意味を考えたいと思ひます。

(ダイヤモンド社代表取締役社長)

新たな気づき

白井 哲

各地のブックスタートでは、対面での読み聞かせの再開が加速している。人の手と言葉を介して絵本が渡される。愛情と優しさに満たされたそのひとときは、赤ちゃんと周囲の大人たちが「幸せ（ウェルビーイング）」を実感する機会でもある。この一年、活動の現場では赤ちゃん笑顔からまた新たな気づきがあるだろう。人種、国境、言葉の違いを乗り越えたブックスタートのグローバルな連携が期待される。

(NPOブックスタート代表)

新しい年を迎えて

佐藤 歩武

あけましておめでとうございませう。

グローバル化のなかで、世界の様々な国の人々と相互理解を深めるためには外国語の正しい理解はとて重要で、世界には多様な言語があります。語学専門出版社として、一つでも多くの言語についてきちんとした学習書の出版に努力していきたいと思ひます。今のところ百十を超えるばかりの言語数に留まっております、忸怩たるものがありますが今までと変わらず出版活動に専念する所存です。

(大学書林代表取締役社長)

年頭のご挨拶

植松 貞夫

謹んで、新春のお慶びを申し上げます。当協会は、すべての図書館の振興を図る活動を展開して、人々の生活を豊かにし学術文化の進展に寄与することを目的とする公益法人です。そのため、出版界の皆様との連携、協力が不可欠です。不読者を減らすことや障がい有する方の読書保障などにむけ、会員の英知を結集して前進する所存です。本年もよろしくお願ひいたします。

(日本図書館協会理事)

いま雑誌のため

JPROが出来ること

渡辺 政信

物流は、この春以降、どんな様相を呈するか？ JPRO（出版情報登録センター）も危機感を共有し、出版物輸送に少しでもお役に立てるよう、新年早々、雑誌データベースを強化します。取次各社のご尽力もあり、雑誌の搬入予定日や重量、結束など仕入・輸送の情報をJPRO上で共通化、出版社とのやり取りを効率的に行っていたく、基盤が出来上がります。書籍の仕入・搬入と同様のルーティンです。

24年問題を見すえ、出版社には、雑誌情報の事前登録をさらに進めていただければと思ひます。

(日本出版インフラセンター専務理事)

継続はチカラなり

松木 修一

明けましておめでとうございま... 旧年中はJ.P.I.C.の様々な取り... 組みに対し、ご協力頂いた皆様... には心より感謝申し上げます。

平和への闘争

萩本 直樹

昨年11月15日、池田名誉会長は... 95歳で霊山へと旅立たれた。平... 和を希求され、戦争の惨禍に苦...

(聖教新聞社代表理事)

新しい「学び」「知」を追求する

小田 良次

明けましておめでとうございま... D.X全盛の今、教育メディア... は多様化し、ICT教育を柱と...

DXIPPって何?

市村 友一

昨年、『週刊朝日』を休刊した... 後、DXIPP戦略本部という組... 織を設けました。DX(デジタ...

(朝日新聞出版代表取締役社長)

締め切りを守る 本多 悟

大学教員になって3年目。締め... 切りに追われる日々から解放さ...

以上を追われている。卒業論文... 提出の締め切りが12月11日に... 了したと思いきや、ゼミの学生...

新年の御挨拶

吉永 元信

謹んで新春のお慶びを申し上げ... ます。多様な出版物がわが国の... 豊かな文化を育んできました。

(国立国会図書館長)

努めていきたいと思えます

北脇 信夫

進歩・進化は(諸刃の剣)のもの... でしたが、その多くは社会の... 善良と民度でその悪影響を抑制...

新社長の空振り

松本 浩司

謹んで新春のご祝詞を申し上げ... ます。昨年テレビ制作会社から... 出版社代表に就任し、当初は業...

(NHK出版代表取締役社長)

明るい未来への道筋を

喜入 冬子

新年おめでとうございます。コ... ロナのパンデミックが終息し、... 安心して多くの人と交流できる...

百年後の姿は?

樋口 清一

一九二七年一月の『科学画報』... (誠文堂新光社刊)の特集記事... 「百年後の世界」では、百年後...

(日本書籍出版協会専務理事)

出版歳時記

▽11月下旬、鳥取県米子市を初めて訪れた。知人の編集者が企画してくれて1泊2日のツアーで、目的は旬の松葉ガニを味わうことと、米子市内にある鳥取大学医学部附属病院1階で営業する独立系書店「カニジルブックストア」を訪ねることだった。

▽「外来入口」を入れてすぐ左側に書店がオープンしたのは、2021年9月。その特徴は、経営するのがノンフィクション作家の田崎健太氏であり、田崎氏の人脈を生かした約100人の選書委員によってセレクトされた各20冊の委員が書棚を飾ることだ。選書委員に名を連ねるのは、佐々智さん、最相葉月さん、佐々涼子さん、角川春樹さん、吉本興業元会長の大崎洋さん、講談社の野間省伸社長、そして、出版社各社の編集者らである。知り合いの編集者の名前を見つけて、その選書を見比べているとアツという間に1時間が過ぎた。

▽隣の境港で水揚げされたばかりの新鮮な松葉ガニを満

出版社に書店を！

喫した翌日の土曜日昼過ぎに、ブックストアを再訪した。病院は休診日ということもあり、人の姿はほとんどなかった。しかし、人手不足を補うために、この10月からは無人販売システムを導入しているため年中無休で営業中（平日11時から15時は基本、スタッフが常駐）。入口に掲示されているQRコードをLINEで読み取ると自動ドアが開錠するシステムだ。我々数名のツアーメンバーしかいない静寂のなかじつくりと約5、000冊の本と向き合うのは得難い経験だった。旅先ということもあり、購入したのは文庫本のエッセイ1冊だったが、PaypaYを使ってのセルフレジでの支払いも極めてスムーズだった。▽同病院に書店が開店したのは、病院長の原田省（たすく）氏の発案だという。外来患者、入院患者、付き添いの家族に加え、医療従事者そして医学部の学生と、一日に5、000人以上が訪れる病院に「知の拠点」を設けることによって、街の書

店が消えゆく地域の活性化を果たそうという高い志によるものだった。そして、持続可能な経営を実現するために採用されたのが無人販売システムというわけだ。

▽東京も街の書店がほとんど消えている。私の自宅近くのTSUTAYAも9月に閉店した。ならば、東京に本社を構える出版社が自社内書店を持つてもかまわないのではないか。出版事業も手掛ける株式会社週刊つりビュースが、東京・曙橋の本社ビル1階に、魚に特化した書店「SAKANA BOOKS」を2022年7月にオープンし、話題を集めている。同様に、各出版社がそれぞれの特徴や強みを生かし、自社の出版物はもちろん、社員の知見や経験を生かした選書を並べるだけでなく、一般書店とは異なる個性的な棚ができるのではないだろうか。また、自ら書店を経営することによって学べることも多いはずだ。「カニジルブックストア」のように無人販売システムを導入すれば人的な問題もクリアできるだろう。▽今あえて言いたい「出版社に書店を！」と。（乙羽小牧）



☆あけましておめでとーございませう。昨年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行され、出版クラブのホール・会議室の利用率が増えてきました。11月には神保町移転後、最高の売上となりました。みなさまありがとうございます。もともと使いやすくて居心地のいいクラブを目指して、職員一同がんばってまいります。

☆今年の全出版人大会の大会委員長を筑摩書房の喜入冬子社長にお願いすることが理事会で承認されました。63回を迎える大会において2人目の女性の大会委員長になります。みなさまのご参加をお待ちしております。5月7日15時、いつものホテルニューオータニです。

☆昨年生まれた赤ちゃんは70万人台の前半になる模様です。対象読者の減少は児童書出版社にとつて

は喫緊の課題、大人向けの社にとつても将来の市場の縮小につながってまいります。どうすれば子供が産まれ、育つ日本になるか、出版業界にとつても大きなテーマだと思えます。

☆神保町移転5周年を記念して、出版クラブビル3階でウィンターイルミネーションを始めました。少しでも華やかな気分になれば幸いです。本年もどうぞよろしくお祈りいたします。

松下幸之助 生誕百三十周年

瀬津 要

新年おめでとうございます。弊社の創設者である松下幸之助は、本年十一月二十七日、生誕百三十周年を迎えます。これにともない、書店様、販売会社様のお力添えを頂きながら、関連企画の準備を進めております。引き続き、ご協力をお願いできれば幸いです。

またこれを機に、弊社創設の原点に立ち返り、所員一同、歩みを進めて参ります。本年もご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。（PHP研究所代表取締役社長）

嫉妬の生む力

岡本 功

1972年生まれの私は「万博楽しかったよ」という言葉に嫉妬してきた。無駄と言われる万博だが、その当時の子供が熱狂したように、きっと現代の子供も喜ぶだろう。先行きの見えない時代だからこそ、2025年万博に向けて努力する年にしたい。（ひかりのくに代表取締役社長）

「出版女性人の会」に励まされた！

下中 美都

時間がない!!

松信 健太郎

本と本屋のない未来がすぐそこまで迫っている。そんなディスプレイを打破するために変革は不可避。2024年は私たちに与えられた最後の変革のチャンスかもしれない。時間がない。でも一縷の望みはある。今ならまだ間に合う。間に合うと信じ、とにかく行動あるのみ。全員で、勇気をもって、変革への一歩を。本年もご指導・鞭撻のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。（有隣堂代表取締役社長）

昨年末四年ぶりに「出版女性人の会」が開かれた。懇親会が目白押しの中、圧倒的に盛り上がったのがこの大女子会だった。中締めの時、一瞬目とした会場で女子たちの真剣な目ヂカラを一身に受けてクラクラした。皆輝いている！これが厳しい厳しいといわれる業界の会か？会場に充満していたのは「この仕事が好き！」という前向きなパワーだった。試練の時代だが、自分を育ててくれた出版界の役に立ちたい！と気持ちを新たにしたい一夜でした。平凡社は今年創業百十年。下中順平新社長のもと果敢に乗り切ってください。今年もどうぞ宜しくお願いいたします。（平凡社代表取締役会長）